

★心に残っているあの事この事◆

敬老の日祝賀会にあたって

「2012. 9. 17」

私は、医者になりまして、30数年経ちますが、最初の10数年は、消化器癌の診断・治療に力を入れておりました。最近20年以上は、内科全般を地域で診る家庭医(町医者)として、特に高齢者の医療、認知症医療に力を入れております。

クリニックふれあい早稲田を開きましたのは、西暦2000年・平成12年のことですが、介護保険制度が始まった年で、クリニックの地域医療展開、介護・福祉事業展開は、介護保険制度と共に歩んできたわけでありました。その介護保険の目玉として注目をあびたのが、当時の「痴呆性共同生活介護」、いわゆるグループホームです。現在は認知症と呼び名が変わっていますが、13年前にスタートしたものです。

それまで、私は高齢者・痴呆症医療を、三郷協立病院で病棟担当医をしておりましたので、今後の高齢者医療・認知症医療が、地域の中でしっかりと展開されるべきと考えて、クリニックを開いたわけでありました。そして、グループホーム(GH)の重要性も痛感しておりまして、2年半後に、アカシアの家を開設して、この7月で9年過ぎ、10年目に入ろうとしています。本日は、GHアカシアの家の現入居者さんが、9名全員ご参加とのことで、皆さん元気に過ごされておられ、素晴らしい事だと思います。



生け花 辻華水さん



みんなで食べると、おいしいね



踊りにみなさん うつとりと

この12年間、高齢者が一層増加しており、最近の統計では、65歳以上の高齢者が3千万人を超え、4人に一人が高齢者という時代になっております。さらに百歳以上の高齢者が五万人を超えまして、非常に多くいることを「ごまんといふ」と表現しますが、この五万人の百歳の方々は、おひとりお一人が、その人にしかない貴重な人生を、百年生きてこられたわけなのです。今も現役で社会貢献されている方もおられますが、そのお一人が、ここに居られます辻華水さんであります。

本日の「敬老の日」に当たり、辻さんの百歳のお祝いをし、かつ、クリニックの発展に大きな貢献を頂きましたので感謝の気持ちを顕せて頂こうと考えております。クリニックの玄関の生け花ですが、毎週この華水先生が生けていらっしゃいます。クリニック開院以来12年以上ほぼ毎週でございます。クリニックでの華道教室も隔週にずっと開いておられ、文江副院長も弟子ですので、先生と言わせて頂いております。昨年は華水先生の自分史も作らせていただいて、敬老の日披露し、今年は百歳ということで二年続けて、この敬老会に来ていただいている次第です。

さて自分史のことですが、今年、医療関係者からということで、元保健婦さんと元看護婦さんのお二人に、提案させていただき、作らせていただきました。昨年段階では、助産婦(早稲田村の草分け助産婦)さんもと考えておりましたが、残念ながらお亡くなりになりました。現在アカシアの家に入居されている方、および小規模多機能ふれあいの家を利用されているかたの、お二人の自分史ですが、ここに完成しましたので、本日、贈呈させていただくために、敬老の日にお招きし皆さんとお祝いしたいと思います。

クリニックふれあい早稲田 院長 大場敏明

「平和のつどい」核兵器も原発もない平和で安全・安心な社会をつ

くろうー地域のさまざまな団体が協賛、200人が参加

主催；アカシア会と三郷わせだ健康友の会



アカシア会と三郷わせだ健康友の会主催の「2012年 平和のつどい」が8月5日、クリニックふれあい早稲田を拠点とするアカシア会の各事業所など計6会場で開かれ、200人が参加しました。平和のつどいは毎年この時期に、アカシア会と友の会が共催している平和活動の一環で、今回は東都協議会のクロスライフ、早稲田9条の会、ほっとピア、みどりの風、青いそら、コンパスの会、埼玉土建三郷支部、埼玉県原爆被害者協議会が協賛しました。



集いの開催にあたり、大場理事長が挨拶しました。特に強調した事は、平和の大切さを改めて実感させられているということでした。被爆体験から学び福島原発事故はまだ続いている。



子供達は、金魚すくいに夢中になっていました。何匹すくえたかな。楽しい企画も満載でした。金魚すくいも平和でないといけないね。



平和の願いを込めて、青空高く、エコ風船

<福島からの発信> 福島県南相馬市から三郷市に避難している中里範忠さんが、熱心に私たちに語り訴えかけてくれました。

約1カ月前、自宅に近づいて行くと、バスの車内でも線量がどんどん上がっていきました。バスから降りると5~6マイクロシーベルトにもなり、驚いて15分ほどで戻ってきました。

ほとんどの家庭が離散しているような状態です。仕事がなく収入が途絶えています。いつまで避難生活が続くのか、本当に夢も希望もない状況です。

震災前まで原発は「五重の壁」で仕切られていて安全だと聞かされてきました。しかし、実際は違いました。原発と人間や自然は共存できません。

原発をなくしたら、日本経済が立ち行かなくなるとも言いますが、私は数十年前の生活に戻ってもいいから原発をなくしたいと思っています。



<被爆体験者の想い> 川口さん(元看護師)は、爆心地から700メートルの長崎大学付属病院で被爆し、白血病と闘いながら被爆者への救護活動を続け、原爆投下直後の同病院や長崎市内の様子、その際の救護活動などを語りました。

自らも被爆し、高熱が出て歯茎から出血するなどして生死の境をさまよいました。道には、服が黒焦げになるほどひどいやけどをした人があちらこちらに倒れていて、水をくれ、水をくれとうめっていました。でも、水はなく、どうしようもありませんでした。今でも亡くなった方の姿が焼きついていて、言葉にはできないこともあります。とにかく、もうあんな目には遭いたくありませんし、原爆は嫌です！！と平和の尊さを強調しました。



平和のつどい、恒例のピアノコンサートでは、大場理事長の実姉・塩澤美智子さんがドビュッシー生誕150周年を記念し「月の光」や「アラベスク」などを披露しました。

ちょっといい話し ちょっといい話し

勇気をだして、心からのプレゼントを



知的な障がいがあるTさんはパティオの内職で得たお金でハンカチを買いました。

日頃から世話になっていたお姉さんが癌で入院し、無事退院できました。おめでとうの表現が照れ臭いのか上手く出来ず、どうしていいのかわからず怒り出してしまふ始末です。読み書き計算が苦手で初対面の人と話すのもちょっと勇気があるTさんです。しかし勇気をだして「しまむら」で2枚500円のハンカチを買い、定員さんにきれいに包装してもらいました。それを手にもって満面の笑みで「姉に渡したい」と相談センターに来ました。「自分でもプレゼント買う事ができたよ！」とでもいっているようでした。

Tさんは一つ出来る事が増えました。お姉さんの嬉しそうな笑顔が私の脳裏に浮かんで来て、一緒にお姉さんの退院とプレゼントの準備を喜び合いました。 (障がい福祉相談支援センターパティオ 山田一三)



212の瞳と向き合えた

三郷市障害者就労支援ネットワークセミナーでの事です。各事業所の紹介の場面があり、パティオでは、メンバーさんに「私とパティオ」と題して発表してもらいました。その一人、Hさんは、参加者の106名と面と向き合ったとたんに頭が真っ白になりました。そして「こんにちは…。パティオのHです」「……」「……」次の言葉が出ません。会場はシーンとなり次の言葉を待っています。しかし「……」。時々「あの…」。顔はニコニコしていますが「……」です。とっても長～い時間を感じられました。「以上です」といって終わりました。

私は、その時、Hさんは恥をかいたと思ったのではないかと不安でした。ところが後日感想を聞いたら「失敗したけど、自分にとってはよかった」と言うので。私は感動しました。

Hさんは、長い間、引きこもり状態でしたが、働きたいと市障がい福祉課に相談し、まず社会生活からという事でパティオメンバーになったのです。最初は、緊張していましたが少しずつ仲間と打ち解け、友達もでき、ついには働く事ができたのです。その事も嬉しいのですが、会場で212の瞳を前にして思うように話せなかったが、とにかく向き合えたのです。引きこもっていた時には考えられない事をしたのです。そして「自分にとってよかった」と。その事は、Hさんのこれからの人生にとって大きな宝物になったのだと思います。

私も「向き合えた」という宝物をHさんから頂きました。 (地域活動支援センターパティオ 長島喜一)

豚汁と人の温ったかき

Yさんは10代の男性で、知的な障がいがあり特別支援学校を卒業し仕事に付きましたが職場とうまくいかず退職してしまいました。家族はお兄さんとの二人暮らしです。お母さんは寝たきりの状態で施設入所、お父さんは数年前に他界してしまいました。兄は弟のYさんの面倒をみようと思死に働いていましたが、生活はぎりぎりです。そのため物を売ったり、食事は、具なしのカレーやカップラーメン、お金がなくなると、ドーナッツを二人で分け合っ

て兄の給料日まで空腹をしのいでいました。家庭料理なんて論外で忘れていました。様々な経過があつてグループホームに入居できました。ホームで豚汁をいただいた時、Yさんは「豚汁が死ぬほど美味しい！！…」と食べての事です。その言葉には、豚汁の美味さと人と家庭料理の温かみが、そういわたのだと思嬉しくなりました。それにしても、《人の温かみ》という具が入った料理って「死ぬほど」すごい力があるんですね。



Yさんは、多くの支援者の温かくって厳しい後押しと、Yさんの努力で作業所(就労継続B)で元気に働いています。時々、自転車で町を走っている姿を見かけますが、たくましいなあと思います

(障がい福祉相談支援センターパティオ 稲垣裕子)

河童談義に花が咲きました

何か言いながら、歌いながらいつも元気いっぱいに来所する三室孝幸さん(本人の希望で本名)。元気に登場されるので来ているメンバーは「おっ！来た。」とすぐわかります。そんな三室さんとメンバーの心洗われるほっとしたエピソード。



ある日のこと、なぜかその日は河童にはまり中。パソコンで河童のことを調べたり、河童音頭を聴かれています。スタッフに夢を語ってくれました。それは、河童を捕まえ自転車の前かごに乗せて町を走りたいといいました。それを聞いていたメンバーから「乗せてもいいけどお皿乾いちやうね。」「乾いちやったらどうする？」と聞かれるとしばらく考え、大きな目をクリクリさせながら「警察に行く！」と。そこにいたみんなの笑いを誘いました。三室さんは、警察は困った時に行く所なのでそう答えたようです。そして、メンバーから「乾かないようにお皿に水を掛けてあげるんだよ。」と教わっていました。その後も河童の話は続きます。次に大好きな車の話に移り、自分が運転しているトラックの助手席に河童を乗せ、トラックのコンテナにサザエさん一家を乗せたいと夢を膨らませていました。

突っ込みどころ満載なのですが、メンバーからは「河童捕まえないとどうにもならないよね。どうやって捕まえるのかな…。」「竹竿にきゅうりをたらせば捕まえられんじゃない。」と言われ、三室さんは「江戸川で釣る！」答え、河童談義は続きました(^)。そして、「そもそも河童っているのかな？」とあるメンバーの一言にみんな「う～ん…」と考え込み答えは出ず(^)。河童のことで真剣に楽しく語り合えるパティオメンバーに思わず頬が緩んだエピソードでした。

皆さんにお願いします。河童の目撃談、河童の捕まえる方法あったらパティオまでお知らせください(*^_^*)。きっとメンバーも大喜びすると思いますので！

<後日談>あるスタッフが「河童は今はいないけど、昔はいたんですね」と真面目にっていました。

えっ！？ 第二の三室さんがスタッフ(相談)にいます。(地域活動支援センターパティオ 石田めぐみ)

目にゴミが入って“涙” 人の優しさに、また“なみだ”

私は10月3日に、まり子さんと入籍し、翌日から鹿児島と屋久島に5泊6日で旅行に行ってきました。その旅行の中で多くの方と出会いました。その中の心温まるエピソードを紹介したいと思います。

旅行4日目にレンタカーを借り、屋久島をぐるっと一周しました。その最初に行った矢苜崎という岬に行ったときにハプニングがありました。妻の目に何かゴミが入ったようで、そこから痛みととってしまい…。なんとか薬局を見つけ目薬を差すもこの日は祝日。途方にくれ、とりあえずご飯というこ食堂「むいごっこ」。そこのおばさんが泣きながら食目を丁寧に洗浄してもらい、さらに近くの診療所に電に。紹介された診療所に行き、休日にも関わらず丁ぶ回復してやっと妻も笑顔に。その後、お礼に再度「むいごっこ」に何うと感謝の念もあって妻は涙、お店のおばさんも涙。おみやげに団子まで頂いてしまいました。



九州最高峰・宮之浦岳

人の温かさに触れた、よい旅行となりました。これだから旅行はやめられませんか。

(就労移行支援事業所ラ・ポルタ 稲垣 祐真)

<編集あれやこれや>

今回初めて職員に「ちょっといい話し」を募集したところ、多くはありませんでしたが、心あたたまると、大いに笑える「ちょっといい話し」が、寄せられました。読ませていただいて、ジーンと胸が熱くなったり、相槌を打ったり、大笑いしたりの連続でした。どれも「ちょっとじゃなく、とってもいい話し」です。様々な事を気づかせてくれます。さらに、人としての生き方を教えてくれる「いい話し」が満載していると実感しました。第二、第三の「ちょっといい話し」を掲載して行きたいと思っています。

寒くなりましたねえ。寒い時には「ちょっといい話し」で温まりましょう(笑い)。

(長島)